南部町立南部中学校　　実践理念：気づき・考え・行動　そして感動の教育

わる気と感動

学校だより　１４号
平成３０年
９月１３日（木）

＝　大きな輪と感動が広がった　第８回 輝城祭　閉祭　＝

６月から取り組みを始め、夏休み明けの二週間急ピッチで取り組んできた第８回輝城祭。二日間で受付をされた来賓・ご家族だけで延べ人数で５００名を超え、ＯＢや小学生、一般参観者も含めると６００名（推定）を超える大盛況の中、『大きな輪と感動を広げ』２日間を成功裏に終えることができました。

開祭式のあいさつで、『学園祭には、一人ではできないこと、一人では学べないことがたくさんある。大勢の人との協力や関わりの中で、一つの目標を成し遂げていく喜びや、感動がたくさんある。～考えや意見の違いでぶつかり合ったり、取り組みの本気度に不満を持って、ぶつかり合ったり、本音で語り合う姿が今年も見られた。それを乗り越えて輝城祭成功をめざしていくことで、強い団結力と大きな感動が得られる。この経験がとても大事だ。これこそ学園祭（輝城祭）で学んでほしいものであり、身につけてほしい力である。～南部中はまだ７年間の伝統だが、輝城祭は一人ひとりを輝かせる、学びと感動のある県内でもトップレベルの学園祭だと確信している。～』とお話ししました。第８回輝城祭は、南部中学校でしか味わえない、感動や喜び・達成感、そして一人ひとりの成長と集団の成長を実感できた二日間でした。

私の３８年間の教職員経験（うち中学校は３０年間）の中でも、総合的に見て昨年度も上回り最高レベルの学園祭だったと思います。テーマの『輪』を目指し、支え合い、伝え合い、みんなで高め合えた輝城祭でした。輝城祭の歴史に確かな足跡を残せた第８回の輝城祭となりました。

三年生全員の気迫あふれるかけ声からスタートしたオープニング、力強く迫力のある演技の南中ソーランは、動きやかけ声だけでなく、足踏みの音まで統一され圧巻の演技で、（『僕たちのソーランを超えた。』卒業生のつぶやき）輝城祭の成功へ向けて気合いの入る最高のスタートとなりました。

１日目は、内船歌舞伎保存会の皆さんの熱心なご指導により、４年連続の上演となった一年生の「吉例曽我対面の場」、一年生が地域の伝統文化を学び表現する貴重な機会です。緊張しながらも堂々とした演技でした。テーマ『輪』をちぎり絵で表現した全校製作の除幕。工夫したこと学んだことを伝えてくれた各学年展示・学習成果発表、わかりやすく工夫されどの学年も「力を入れているなあ。」と感じられました。続いて、各学級の思いを込めて作った学級旗のアイディア満載の紹介。３年連続のライブパフォーマンスで、壁画『昇り龍』を制作し披露してくれた美術文芸部。チームとして連携の取れた動きが、美術文芸部の『輪』を表現していました。また、未来への希望を感じさせる作品でした。１日目最後は二年生の演劇『夏休み』、戦前の小学生の最後の夏休み、切ない思いが胸に迫ってくる迫真の演技でした。また、随所にコミカルな部分がちりばめてあり、どんどん引き込まれていく作品でした。（実際に校長は妖怪扱いされてしまいました。）

とても１号では収まりませんので、２日目は次号でお伝えします。